



イソブキ便り

NO.1~4まではホームページをご覧ください

NO.5 平成25年度 上半期号

須佐連絡先 080-3458-0925 / 0557-23-3501 mamo@knossos.jp



伊豆森林の未来を考える ワークショップ

一年前の議会でも取り上げた森林 林業再生の取り組みについて、この3月議会でも町の考えを質いただきました。

そんなこともあって、この週末は森林にこだわった活動をしました。きのうは稲取ふれあいの森の整備状況を見に行きました。間伐が行われるとともに駐車場も整備、体育館横の稲取火山の割れ目噴火がおこったスローアを見学して簡易貯木場も確認しました。間伐した多くの木はそのまま置かれっぱなしですが、質のいいものはこつやって出荷を待っています。



ふれあいの森一帯の伐採事業。県の厚い支援によって、林道が整備され森が再生します。

翌日は松崎の一般社団法人「はなろま」さんの森林を考えるワークショップに参加し、山梨県の小菅村で『地域おこし協力隊』として活動する関口智久さんの話を聞きながら、参加者の皆さんと意見交換しました。小菅村は多摩川源流にある人口800人にも満たない小さな村です。



ワークショップの様子。この日は地元松崎はもちろん、河津・南伊豆・三島、東京からも3名の出席がありました。

関口さんは眠っている林業に着目し、「軽トラで晩酌を」を合言葉に、間伐林を運び出す活動を仕掛けました。ちなみに軽トラ2杯1で三千元になるそうです。

松崎町の取り組みが素晴らしいのは、職員が町民目線の延長に立って仕事をしていること

だと感じます。限られた資源の中でどう町をアピールしていけばいいか、町民が考え方の延長に町の考えがある。それと、こういった会合や研修に必ず職員が来ています。

ワークショップはいいですね。「この方たちとまた会って話したい」という気持ちにさせてくれます。おもな意見を書き出します。

山の現状を知るためにまず歩いてみよう。

間伐材を新にしたり、遊歩道の整備に使う。

産業の乏しい「伊豆」地域をモノづくりの工房へ。

広葉樹を増やして、癒し空間をつくる。

防災意識の高まりとともに、燃料・資源としての森林を

『地域おこし協力隊』：地方自治体が、都市住民を受け入れ、地域おこしや農林漁業の従事してもらい、交流・定住を推進するという国の制度。松崎町南、西伊豆でも進めている。

(3/17)

熱川防災センター建設

24年度の補正予算で政府が推し進める「国土強靱化」と「防災減災計画」これが市町レベル、とりわけ地震・津波の被害が予想される自治体ではけっこう大きな予算どりになりました。特に当町では、これまでに要望のあった自主防災センターの新設改修が4件予定されています。

熱川温泉の場合、避難地が高台になるため、ホテルの宿泊客や海水浴客が逃げ遅れる危険があります。避難路確保のため、隣接する民有地の一部を購入する案が出されましたが否決されました。地元議員として非常に残念です。(3/31)



熱川の廃墟と化したホテル。町有地であるため取り壊し、防災センターの建設が予定されている。

総務経済常任委員会 副委員長

議会広報編集委員会 議会運営委員会
東河環境センター議会 健保運営協議会(副会長) 社会教育委員会
交通安全対策委員会 給食センター運営委員会

ご声援ありがとうございます！
スサノオが町に新風を巻き起
こします！



北川防災センター落成！

北川地区にできた、防災センターの落成式がありました。町三役、議会関係者、そして地区の皆さんに消防関係者と、たいへん賑やかなお披露目になりました。地元区長さんの挨拶に気持ちこもっていました。無事完成して本当に良かったと思います。



ぼろぼろの公民館だったころ、検診で利用させてもらったことがありますこれで安心。奥に伊豆急の北川駅が見えます。

一階が集会所、避難スペース、厨房など、中二階に消防車両格納庫、三階が自主防の会議室と消防団詰所、シャワーもあります。バリアフリー使用のトイレ完備。こう見ると結構すごい。工事は、割愛させていただきます。いや、あえて書きます約1億！（5/29）

友路学級にて築城石群散策

6月3日は生涯学習講座の「友路学級」に参加しました。築城石に関しては、実は3月に伊東市の学芸員である金子浩之先生による講演会、4月には「石・音・花・めぐりトーク&コンサート」ということで、城石・刻印石の研究家菅野良男先生の築城石の講話と散策に参加しました（いずれも大川）。また、5月には伊東の宇佐美で、NPO法人宇佐美江戸城石丁場遺跡保存会の皆さんが企画した「江戸城石丁場遺跡と地域づくり」フォーラムが開催されました。

友路学級では、今回は岡田善十郎先生の案内で、大川の細久保の築城石群の説明を受けながら谷戸ノ入・谷戸山の築城石群に向かいました。けっこう急な山ですが、皆さん元気に登って行きます。ここには大変貴重な石がたくさんありまして、とくに分銅紋と呼ばれる銀行マークのよなもんを多く見かけました。

そして、角石。石垣の角に使う石で品格のある大石です。



文化財保護のためには乗り越えなくてはならない課題もありますが、国の重文になれば手厚く保護されます。

東伊豆町だけでも価値のある築城跡が数多く眠っています。宇佐美や熱海の石丁場を含め、国に認めてもらえるような努力を惜しんではいけません。（6/3）

議会改選！ 総務経済常任委員会へ

5月の改選で、総務経済常任委員会の所属になりました。しかも副委員長！責任重大ですが、先輩議員の指導を仰いで一杯努めたいと思います。一般質問は以下の項目です。一、中山間地域総合整備事業について

二、町が行っている調査について

三、文化的財産の扱いについて
四、知的財産の商標について
五、町職員の採用試験について
奈良本の農道太田線の拡張と歩道の敷設、耕作放棄地と空き家の調査で来年度に向け移住定住に向けた施策が図られることになりました。

市民農園の視察

常任委員会が総務経済になったことにより、担当する課も総務、観光商工・建設・水道・企画・農林水産に変わります。さっそく今回、市民農園の推進委員になりました。

この農園事業は、住民や観光客向けに体験農園を整備するもので、以前まちづくり協議会で提案したものが実施される形です。推進委員会では、近辺の地域の先進地である伊豆市、三島市に視察しました。

この農園の事業費は1億円で、ほとんど県の予算が充たされますが、採算性をめぐって疑問をもつ議員も多く、この日は



・新人議員として町のため、伊豆半島のために奮闘します (ノハノハ)
 ・詳しい内容は、須佐まもるホームページ、ブログ、議会だよりをご覧ください。

スサノオがこの町にひそむ八岐大蛇 (防災・医療福祉・観光・商工・農林水産・教育・雇用・公務員改革の諸問題) に取り組みます \(*´`*)ノ



稲取の建設予定地に全員で視察しました。(7/10)



町に寄付された休耕地を切り開き農地にします。指定管理者など運営の問題が指摘されました。

防災士フォローアップ研修

今日は下田で、ふじのくに防災士フォローアップ研修がありました。このふじのくに防災士は、静岡県が定めた認定資格で、一週間ほど缶詰になって講習を受けて取得するものですが、この資格取得後、国の「防災士」の受験資格が得られます。私は昨年防災士の資格を取得することができました。

今日の注目は、第4次地震被害想定についての解説です。いわゆる三連動地震の伊豆半島での被害情報はどれほどなのか聞きました。まず、被害想定

をレベル1、レベル2と設定し、ワンは100〜150周期に起こることが予想されるM8.0〜8.7、ツーは東日本大震災のように、千年周期で起こるようなM9.0程度の巨大地震と仮定しています。



各市町の区長さんと「災害対応図上訓練」を演習しました。DIGの進化したイメージTENというもので盛り上がりました。

東伊豆町では三連動の警戒もそうですが、相模トラフの大地震にも警戒せねばなりません。むしろ津波のことを考えれば後者を意識した対策を急ぐべきでしょう。そのためにも稲取港の規格の見直しを行い、自衛艦の碇泊が図られるよう協議をしていくべきです。し、神奈川県、東京都、千葉県との連携や共同研究を進めていくべきと考えます。(7/19)

西伊豆の復旧支援に参加しました

7月17日夜から18日未明にかけて降った大雨は、伊豆地方に被害をもたらしたが、とくに西伊豆町では被害が大きく、安良里地区、田子地区、宇久須地区などでは主に川沿いで被害が拡大しました。

町災害対策本部によると、降り始めからの総雨量は宇久須で200ミリを記録。土砂崩れの影響で田子で3棟、宇久須で1棟の住宅が一部損壊。床上浸水は安良里63棟、田子12棟、宇久須8棟が発生し、仁科、田子、安良里、宇久須で計204棟が床下浸水したそうです。



私たちが向かったのは田子地区の独居老人宅のヘドロかきと、宇久須の裏山が崩れた現場で水路の復旧を行いました。

西伊豆町ではその直後に災害対策本部を立ち上げ、ボランティアを募集しました。賀茂郡の他市町議員の有志がすでに入って作業をしているとのことと、東伊豆町としては遅参した形でしたが、まだ仕事はあるとのことと、7/31、東伊豆町議会 総務経済委員会の有志メンバーで、復旧支援に行きました。

宇久須の現場では若いボランティアが5名ほど来ていました。聞くと沼津や三島、下田から来ているということでした。



災害の現場へ行くと今どきの若者に多く出会います。自分を必要とする場を探しているのかなと思うときがあります。

山口県では「須佐」というところで大きな被害がありました。人ごとではありません。被災地に寄り添いたい心境です。

【所属委員会】 議会広報編集委員会 議会運営委員会 東河環境センター
議会 健保運営協議会(副会長) 社会教育委員会 交通安全対策委員会
給食センター運営委員会

後援会大募集!



・新人議員として町のため、伊豆半島のために奮闘します (ノ ^)ノ
・詳しい内容は、須佐まもるホームページ、ブログ、議会だよりをご覧ください。
・Facebook / Twitter @MamoruSusa HP http://knossos.jp/giin_mamoru/face1.htm

総合防災訓練の実施

震災時のように、交通費の支給、高速料金の免除など政府が配慮してくれればもっと多くの方が災害ボランティアに参加することができるでしょう。気持ちを寄せ合いたいですね。
(8/1)

本日、防災訓練がありました。残暑厳しい中、奈良本地区自主防災会では530名を超す皆さんが訓練に参加しました。地区の子どもたちが進んで訓練に参加し自主的に行動しました。幼いころから訓練に参加することで、有事の際にはきつと役に立つことと思います。課題もありました。区の役員は通常2年で、慣れる頃には入れ替わるためいつも「これでいいのだろうか?」という状態で訓練が進む。現場から上がる声は、自主防の限界とスペシャリストの育成、そして、民生委員のように専門に防災を担当する「防災委員会」を組織し、区と両輪で防災訓練を統括するというものです。



毎年感心するのが、幼稚園児から高校生まで自主的に参加することで、半数が子どもや学生でした。

東日本大震災以降、伊豆半島は3連動地震や関東大震災への警戒が厳しくなっています。さらにこのところ頻繁に起きるゲリラ豪雨、そういった災害に常に対応できる体制を整えておかねばなりません。

さらに、横のつながり、いざ災害が起こったときの対処のため、社協や消防団との連携、民生委員との情報のやり取りは密にしなければなりません。また、別荘地やマンションに住む住民の安否確認や観光客の誘導・避難など、考えると嫌になります。が、「防災第一主義」を貫く必要があるでしょう。自主防もそうですが、町の果たす責任は大きいものになります。

(9/1)

9月議会決算委員長就任

9月10日から始まる9月定例会に於いて、5問の質問を行いました。

- 一、産業振興について
- 二、東伊豆町観光振興計画について
- 三、熱川温泉の活性化について
- 四、防災への取り組みについて
- 五、学校教育について

この度、決算審査特別委員会の一般会計決算委員長を務めさせていただきます。行政のムダや効率的なお金の使い方について指摘させていただきます。

詳しくは「須佐まもる」のページ、「議会だより」で!



3月の予算委員長に続き、決算でも委員長を務めさせていただきました。歳入歳出、役所の事業についても検証しました。

“学調”全国最低レベル

小6と中3の全国学力テスト。私も9月議会で一般質問をした件ですが、知事は教育者だけに許せないのでしょうか。静岡県は成績が悪く、特に小学生の国語Aが最下位でした。

私も教育に携わったものとして言いたいのは、静岡県は甘い! 気候が良いのかわかりませんが甘すぎ。何が甘いかって自分に甘い。学力とかはさておいても不祥事が多すぎる!

教師のセクハラ事件は日常茶飯事。毎月のようにニュースに出てくる。それも氷山の一角でしょう。次から次に出てくるというのは反省してないから。そのことに知事は怒ってません。それと教師に威厳がないのも成績低下の原因では?

私もこんななんびりしたところで子育てしたいと思ってきました。ただ、甘えとなると別です。これは県全体の話です。教師に限らず公務員全体で、自覚に欠ける事件が多すぎます。(9/17)